



支援のプロを、世界の現場へ

* ピースウィンズ・ショップから *

「東ティモールフェスタ 2016」無事終了しました!

ピースコーヒーのふるさとである東ティモールは、2002年の5月20日に主権を回復し、今年で14回目の独立記念日を迎えました。この日に合わせて、日本でも東ティモールに関係する企業、団体、NPOが集まり、東京・上智大学で「東ティモールフェスタ2016」を行いました。

当日は東ティモール大使のあいさつに始まり、同国のコーヒー、教育、衛生などに関するトークセッション、東ティモール人歌手による歌と踊りの披露などがあり、延べ600名の方がいらっしゃいました。PWJは合同でカフェブースを出展し、栽培地や標高によって味が違う東ティモールのコーヒー3種類を飲み比べるセットを販売しました。来年は15周年! 来年も皆さまのご参加をお待ちしております!



夏到来! サマーギフトや水出しコーヒーはいかがでしょう?

アイスコーヒーが美味しい季節になりましたね。スッキリとしたきれいな味わいの水出しコーヒーをご自宅で作ることができる、東ティモールの有機水出しコーヒーはもうお試しくださいませんか。ポットに入れて一晩漬けておくだけで、翌朝には本格水出しコーヒーができる優れものです! ぜひお試しください。

また、毎年好評いただいている「おかし屋はれっと」のクッキーとコーヒーのセットなど、各種サマーギフトの販売を開始しました! お世話になったあの方へ、ピースウィンズのギフトをぜひご利用ください。皆様からのご注文をスタッフ一同お待ちしております。

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

同封のご注文用紙をFAX:03-3465-2112またはTEL:03-5738-8021まで
*ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。



ペットと一緒に避難できる場を

熊本地震 緊急支援

5月末、熊本県益城町の「熊本テクノリサーチパーク」内の駐車場に、箱型のユニットハウス40棟が並べられた。ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)が熊本地震の被災者支援として、ペット連れや特に配慮を要する世帯向けに用意したもので、各棟にエアコンや冷蔵庫が備わっている。6月初旬に入居が始まり、最終的にはトレーラーハウスを含めて100棟近くになる計画だ。



行方不明者の捜索にあたる救助犬チーム

2度にわたる震度7の揺れで、益城町では住宅の半数にあたる5400戸が全半壊した。ユニットハウスは、被災者が仮設住宅などに落ち着くまでの間、少しでも快適に過ごせるようにと設置した。敷地内にはシャワー、トイレ、洗濯スペースのほか、入居者が自由にくつろげる集会所、ペットの一時預かり所なども設けられる。

PWJは、最初の地震が起きた4月14日の深夜に災害救助犬2頭とレスキューチームを派遣。翌15日に益城町で、「本震」が起きた16日には大規模な土砂崩れがあった南阿蘇村で、行方不明者の捜索にあたった。

その後、救援物資の配布と並行して取り組んだのが、犬や猫などのペットを連れて避難している人たちの支援だ。東日本大震災後、環境省は災害時のペットの「同行避難」を勧めているが、鳴き声や臭いを嫌う人も多く、益城町でもペット連れの人は体育館の通路で肩身の狭い思いをしながら暮らしたり、やむを得ず車中泊をしたりしていた。PWJはこうした避難者に、4月17日以降、大型テント「バルーンシェルター」や、プライバシーを確保できる家族用のテントを提供。梅雨入りを控えて暑さや大雨に対する心配が強まったため、ユニットハウスに切り替えた。

現地では、多発する余震が被災者の不安を募らせ、復興への歩みを遅らせる。長らく避難生活に対応し、被災者の心と体のストレスを和らげるため、PWJは今後も支援を続ける。

★特集は裏面に続く



ペット連れの世帯に提供したテント

支援地レポート

イラク

シリア危機の影響により、イラク北部で避難生活を余儀なくされている25万人のシリア難民、15万人の国内避難民および周辺地域の住民を対象に、教育や保健、水・衛生、住居、生活物資配布の幅広い分野において、かれらの生活基盤を底上げする支援を継続しています。写真は目の不自由な子供たちに眼鏡を配布した時の様子です。



アフガニスタン



アフガニスタンを代表するCivil Society Organization(CSO=市民社会組織)ネットワークの能力を強化するための事業を、日本の3つのNGOと連携して、2013年から続けています。2016年3月からは、現地CSOの実務研修に加え、CSOへの事業助成などを通じたネットワーク組織の事業管理・監督能力の強化にも取り組んでいます。

瀬戸内

PWJはNPO法人瀬戸内アートプラットフォームと協力し、芸術を核とした瀬戸内海の地域振興に取り組んでいます。この度、瀬戸内海のほぼ中央に浮かぶ無人島の豊島(とよしま=愛媛県上島町)で、ドイツの世界的な現代芸術家ゲルハルト・リヒターの作品の一般公開を始めました。今年の公開は8月28日まで。詳細はHPをご覧ください。



連携を生かし、細かいニーズに迅速に対応

PWJは災害救助犬・レスキューチームによる初動活動から間を空けることなく、地震発生3日後の4月17日に避難所支援を開始しました。物資配布においては、これまでの企業との連携実績を生かし、避難生活に必要な物資の募集、マッチング、受け入れの調整をし、スピーディに被災者の元へ運びました。また、昨年12月にPWJが佐賀県に事務所を開設したことから、同県のNPOと連携してボランティアを派遣してもらいました。

今回の支援活動はPWJ、公益社団法人Civic Force、アジアパシフィックアライアンス・ジャパンの緊急支援合同チームで取り組んできました。連携により、各団体の持っているリソースを最大限に生かし、より効果的な支援活動を行うことができました。今後も連携強化につとめ、次の大規模災害に備えたいと思います。

PWJの主な活動

- 益城町総合体育館芝生広場に設置したバルーンシェルターにのべ40世帯・152人・ペット54匹が避難
- テント村を益城町内の2か所で運営し、延べ76世帯277人、ペット96匹が滞在
- ウレタンマットレス480枚、ビニールシート大小300枚、衣料品約1300人分、傘50本、チョコレート800個、ビタミンC補給のため甘夏60箱、ペット用品、熱中症対策グッズなどを配布
- テント村内に無料カフェコーナー、充電コーナーを設置
- 仮設トイレ18基・仮設風呂3基・洗濯機2基の設置
- ペットの一時預かり所(犬・猫)、ドッグランを設置など



再春館製菓所の広場「再春館ヒルトップ」に設置したテント



益城町総合体育館芝生広場のテント村ではカフェコーナーも運営



トラックで衣料品を届けるPWJスタッフ ビタミン補給のために配布した佐賀の甘夏

必要な人びとに必要な支援を

～温かいご支援をありがとうございます～

PWJの熊本地震被災者支援活動に全国の皆さまから多くのご寄付をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、被災地のニーズに柔軟に応え、いま必要とされている支援を届けることができました。熊本の人々の声を一部紹介します。

「避難所で初めて会う人たちの助け合いや、外から駆けつけてくれる人たちや家族の助け、届けられる物資によって、生きる意欲がわきました」(70代女性)

「瓦礫を見てきたから、カフェで『お茶どうぞ!』と言ってくれるスタッフの笑顔を見ると、花が咲いたように嬉しい」(60代女性)

「ほぼ全壊の家を見ると本当に元気が出ない。それでもペットや家族と一緒にここ(PWJのテント)にいられると、生きてよかったと思う」(60代女性)



「今後のモデルケースになる活動と実感」

PWJ 熊本事業担当 大塚英二

熊本地震から1カ月半が経過した今も、約7千人が避難所での生活を余儀なくされています(6月4日現在)。ペット同行避難者を主な対象とした避難所運営



支援は、PWJの活動において前例がありませんでしたが、このような形態の避難所は根強いニーズがあり、同様の災害が発生した際のモデルケースにもなり得る取り組みであると感じました。ペット同行避難者の人々は車中泊などの避難生活を選ばざるを得ない方も多かったのですが、PWJのテント村に入居したことで、「身体的にも精神的にも楽になった」という声が多く寄せられました。

テントからユニットハウスへの住居移転は、プレハブの設置や電気・水道の敷設工事などを伴う大掛かりな作業になりますが、避難されている人々が熊本の暑い夏を安全に過ごし、次のステップへ着実に進めるよう、引き続きサポートしていきたいと考えています。

支援の現場から

～パレスチナから駐在員・北原聡子がレポートをお届けします!～

PWJは2015年12月から、パレスチナ・ガザ地区で、紛争被災者の生活改善のための「キャッシュ・フォー・ワーク事業」に取り組んでいます。短期の雇用を通じて人々に現金収入を得る機会を提供する事業で、それぞれの必要に応じて生活物資を購入できるようになることを目的としています。対象は特に失業率が高い青年層。3か月間、市民団体に準職員として勤務することで、現金収入だけでなく、彼らのキャリア形成や市民団体の活動強化につなげることも目指しています。

事業を進める上で、いくつか疑問がありました。まずは、若者を受け入れるための十分な数の市民団体がガザにあるのかという点です。実際には、困難な生活が続くガザでは市民活動が活発で、人口180万人のガザになんと数千もの市民団体があるとのことでした。

次の疑問は、ガザでは教育の重要性が認識されているか、若者が市民団体に働くための知識を持っているかという点です。これも心配は無用でした。攻撃を受け、虐げられ、明るい未来を考えることが容易でないガザにおいて、教育は希望の光であり、生きるための手段なのです。借金をしてでも子供に教育を受けさせます。教育に対する理解が低い国が多く存在する中、ガザでは教育はサバイバル手段と考えられ、経済的余裕のある者だけが大学に行くという公式は当てはまりませんでした。

もう一つの疑問は、支援対象となる若者の男女比です。イスラム圏のガザでは女性の行動が制約されるため、応募の大半が男性になると予想され、男女のバランスをどうとかが課題でした。しかし、実際には応募者の70%が女性だったのです。これには提携団体のパレスチナ人職員も驚いていました。女性が関わりやすい教育分野も対象だったために応募しやすかったのだと思いますが、嬉しい驚きでした。

このように、同じ事業内容でも実施する国・地域に特有の社会状況、文化、風習を加味しなければいけないところが、事業形成の面白いところであり、難しいところでもあります。今回の事業を通じてガザの特性を新たに知ることができたのは、私にとって改めて人道支援に関わる嬉しさ、楽しさを実感する体験となりました。



子どものリハビリを担うボランティア



子どもたちに補習授業を行う若者



地域住民に保健の研修を実施する若者



現地提携団体のスタッフと一緒に写るPWJ北原(前列右端)

熊本地震緊急寄付のお願い

PWJは熊本地震被災者支援活動のため緊急寄付を募っています。皆さまからの貴重なご寄付は、熊本地震で被災された方への支援活動や、災害救助犬・レスキューチームの強化のために使わせていただきます。温かいご支援をよろしくお願いたします。

- ◆郵便振替口座：00160-3-179641
- 口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
- 通信欄に、「熊本地震緊急寄付」と明記してください。

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641
加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等(東日本大震災の場合はその旨を)を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付
銀行名：三井住友銀行 青山支店
口座番号：普通 1671932
口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付
銀行名：三井住友銀行 桜新町支店
口座番号：普通 6723184
口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合などはご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込では住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

ご報告

「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」受賞!

PWJは、さまざまな社会的課題をビジネスの手法で解決する「ソーシャルビジネス」の分野で優れた取り組みを行ったNPOなどに贈られる「第4回 日経ソーシャルイニシアチブ大賞」(日本経済新聞社主催)の大賞に選ばれました!6月27日には、東京都千代田区の日経ホールで表彰式が開催される予定です。PWJは今後も「チャレンジ(挑戦)」と「イノベーション(変革)」を合言葉に、従来の分野や方法にとらわれることなく、挑戦を続けていきます。

- ・3/14 山陽新聞に東北支援に関するPWJ 國田のインタビュー記事掲載
- ・3/31～ ピースワンコ事業の広島の殺処分対象犬全頭引き取り開始について、朝日新聞、読売新聞、NHK 広島放送局などで紹介
- ・4/15～ 熊本地震被災地への救助犬チーム派遣、ペット同行避難者向けの支援について、新聞各紙、テレビ朝日「報道ステーション」、雑誌「女性自身」などで紹介
- ・4/25 NHK・BS1「国際報道2016」のナール地震1年特集でPWJの活動が一部紹介
- ・5/26 日経新聞でPWJの日経ソーシャルイニシアチブ大賞受賞について紹介
- ・雑誌「Casa BRUTUS」6月号で瀬戸内海の地域振興事業(リヒーター作品公開)紹介
- ・雑誌「BRUTUS」3月1日発売号で救助犬・夢之丞紹介 etc...

メディア掲載報告